

ユニケージ[®]開発手法導入レポート

山梨中央銀行

銀行業／経常収益 523 億 53 百万円 (2019 年 3 月期)



usp lab.



“自立的に考え動くシステム部門へ意識改革
地域のお客様の価値創造を ICT でご支援しています。”

応用の利くユニケージの知識を身につけ、先端技術を用いたシステム開発に取り組む

株式会社山梨中央銀行 田中教彦氏、羽田尚詞氏、加藤浩介氏、佐藤正樹氏、権守達也氏 インタビュー

山梨県に本店を置く唯一の地方銀行である山梨中央銀行は、1877年の創業から150周年を迎える2027年を見据えた長期ビジョン「Value Creation Bank」を掲げ、新たな価値の創造と大胆な構造改革に取り組んでいる。かつてない環境変化に直面する中で銀行の業務を支え、ICTによる銀行の新たな価値創造に取り組む同社システム統括部の皆さんにお話をうかがった。

自分で 考え動くシステム部門へ

——システム統括部について教えてください。

田中：システム統括部は、銀行業務におけるシステムの重要度が増したことをうけ新勘定系システム構築終了後の2011年7月に立ちあがりました。安定性優先、業務の合理化

効率化が中心の従来の銀行システムの特性もあって、当時のシステム部門はユーザー部門から言われた仕事をこなす受け身の姿勢でした。しかし私が着任した2015年には銀行業界自体が大きな転機を迎えていて、業務も大きく変わりつつあった。そこで「パイモダルの考え方を軸におき、従来の守りのICTに加えて攻めのICTに取り組む、自立性の高いIT人材を育て、自分で考え動く部門に変わろうと目標を掲げました。

——自立性の高い人材育成のためにされたことは

田中：AIやネットワークセキュリティなどの先端技術でビジネスをしている企業に、若手部員を半年～1年ほど派遣しました。技術習得も貴重ですが、何より、外部から自分の仕事の在り方や銀行を客観的に見て課題を見つけたり、先端企業との人脈をつくりコミュ

ニケーションする力を身につけて帰ってきたことが大きいです。業務が縦割りで回っていた時代は固定化された師弟関係でノウハウを継承していましたが、システム化の範囲が広がっている今は業務の垣根を越えてノウハウを持った人が集まり知恵を出し合うことが必要と考え、オフィスのレイアウト変更もおこないました。

取締役 システム統括部長
田中 教彦氏



地域活性化のために 銀行がドローンを飛ばす

——システム部員の意識変革の結果どのような変化がありましたか

田中：中期計画にもあるように全社的な取り組みとして地域への貢献を掲げていますが、その中でシステム部門だからこそできることとして、ICTによる地域のお客様への貢献を企画し提案するようになりました。地域の大学や企業とのコラボレーションも積極的におこなっています。デジタル化は銀行やシステム部門だけの問題ではなく、地元産業の浮沈につながると考えています。今年から法人営業部とタッグを組んでお客様のICT導入支援も始めました。お客様の課題抽出をお手伝いし、ICTを導入した方がいいのか業務を変えた方がいいのかを整理した上で、ICTが必要となれば私たちがご提案したり地元ベンダーをご紹介したりしています。既存のパッケージをお薦めすることもあります。部員自らがプロトタイプを作り、お客様に使っていただいて製品化もおこないます。これまでに次のようなことが実現しています。

- ・ Quiz BUNDAS (クイズぶんだす) …山梨大学と共同で開発した金融リテラシー向上のためのスマホアプリ
- ・ wAIne (ワイン) …質問に答えるとAIで山梨産ワインをお薦めするサービス
- ・ winARy (ワイナリー) …ワインのラベル画像に拡張現実 (AR) で情報を表示。ショッピングサイトにリンクしたり、そのワインにあう食事を提案するなど、お客様のビジネスと連携
- ・ ドローンで撮影したブドウの枝の剪定分析システム

【図1】ドローンによるブドウの蔓の分析



習得しやすく応用が 利くユニケーの知識

——ユニケー開発手法で開発したのどのようなシステムですか

佐藤：店頭でお客様に対応しながら取引情報を検索し明細書を出力するシステムです。これまではご依頼いただいた翌日に明細書を郵送しており、店頭ですぐにお渡しできないという顧客サービス上の問題と、郵送という事務効率の問題がありました。そこでユニケーの高速性に着目し、2ヶ月の実験を経て採用を決定しました。

羽田：銀行業務の中でも重要な業務の一つです。旧システム導入時は翌日郵送でよかったのですが、今はそういう時代ではなくなって、保守切れに伴うシステム更新のタイミングで作り替えることにしました。ただ、過去の法改正対応でカスタマイズを重ねている上、複数の勘定系のDBからデータをとってきて処理する必要がありました。

加藤：ユニケー開発によるデータ処理部分は比較的早くできたのですが、出力結果の検証に時間をかけました。これまでお客様のお手元に届けてきたものなので、急に内容を変えるわけにはいきません。通帳の代わりになるものなので通帳と違ってもいけない。科目によっても出方が違うので、業務を知っていると出力結果が正しいかどうか判断できません。実際に紙に出して検証する作業が続きました。

【図2】ユニケー開発手法で開発したお客様明細出力システム



——ユニケー開発手法に取り組んでどうでしたか

権守：システム統括部に配属されて1ヶ月でユニケー開発に取り組みました。配属前は営業店にいてシステムに関する知識がなく、

Linuxの勉強から始めたので他のツールとの比較はできないのですが、Linuxの考え方に基づいてパイプでつないでデータを処理するというのがわかりやすかったです。ある程度覚えれば自分で調べてやれる、初心者にも始めやすい手法だと思いました。

佐藤：OSの基本機能を無理なく使ってシステム化する手法だという印象です。他の開発ツールだとそのツール独自の設定や使い方を覚えなといけませんが、ユニケーはLinuxなので知識は応用が利きます。実際、ユニケーを経験した部員がAIにLinuxの知識を活かしています。

——今後はどのようなことに取り組まれる予定ですか

田中：銀行がもつ貴重なデータの活用を考えています。

佐藤：まずはシステム更新のタイミングで既存の小規模サブシステムを内製で置き換えていきたいと考えています。ユニケーの高速性が活かせる部分で採用して実績をつんでいきたいです。

【図3】 Quiz BUNDAS



システム統括部 システム開発課 課長代理
加藤 浩介氏



システム統括部 システム開発課 課長代理
佐藤 正樹氏



システム統括部 副部長
羽田 尚詞氏



システム統括部 システム開発課
権守 達也氏



会社名：株式会社山梨中央銀行

所在地：山梨県甲府市丸の内一丁目20番8号

資本金：154億円

従業員数：1,773名 (2018年9月現在)

ユニケー開発手法に関するお問い合わせは

有限会社ユニバーサル・シェル・プログラミング研究所

東京都港区西新橋3-3-3ペリカンビル3階

TEL：03-3432-1174 E-MAIL：koho@usp-lab.com

https://www.usp-lab.com